

整理番号： 65

科目名： 科目名：切花栽培概論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	切花専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
米倉 悟	有	農業大学校職員8年経験
野田 輝夫	有	農業大学校職員11年経験
犬伏 加恵	有	農業大学校職員1年経験
原 知明	有	農業大学校職員4年経験
大橋 博子	有	農業大学校職員1年経験
坂下 健	有	農業大学校職員10年経験

授業の目的及び内容	切花生産の現状、消費動向、流通の概要を把握するとともに、切花生産に必要な環境制御法、生育調節法、品質保持技術等について学習する。
授業の方法	主に教科書を用いた講義を行うが、必要に応じて参考資料を配布する。
到達目標	①切花生産業界を取り巻く環境の全体像を把握できる。 ②切花を商品として生産する技術を理解する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	新版 草花栽培の基礎	樋口 春三	社団法人農山漁村文化協会			
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	筆記試験100%で評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画		
回数	内容	時間
1	花きと花き産業 人間生活と花と緑	2
2	花きの成長・開花と環境	2
3	花きの繁殖方法	2
4	花きの育種	2
5	土壌の性質と施肥 施設の種類の種類・構造と利用	2
6	花きの品質と品質保持	2
7	苗の生産	2
8	試験	1
合計		15

整理番号： 66

科目名： 科目名：切花栽培各論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	切花専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
原 知明	有	農業大学校職員 4年経験
大橋 博子	有	農業大学校職員 1年経験

授業の目的 及び内容	主な切花品目について、生態特性、栽培技術などを学習する。
授業の方法	主に教科書を用いた講義を行うが、必要に応じて参考資料を配布する。
到達目標	主要な切花の特性や栽培技術などについて理解ができる。

区 分	書 名	著者・編集者名	出版社名			
教科書	新版 草花栽培の基礎	樋口 春三	社団法人農山漁村文化協会			
参考文献						
その他教材						
成績評価の 方法・基準	筆記試験100%で評価。					
試験の有無	定期試験	有	追試験	有	再試験	有

授業計画			
回数	内 容		時間
1	バラ	・主要な栽培品種名と特徴 ・生育適温、適日射量	2
2		・主な仕立て方法と特徴 ・流通と市場性	2
3	キク	・分類と開花特性 ・発育相と通過条件	2
4		・キク栽培の要点：親株管理、土壌条件、温度管理 日長管理、生育調整剤の利用	2
5	カーネーション	・主要な栽培品種名と特徴 ・生育に適した栽培環境	2
6		・流通と市場性	2
7	洋花	・主な品目の名称と生育特性 生育適温、不適環境と生理障害、温度処理、日長管理	2
8	試験		1
合計			15

整理番号： 67

科目名： 科目名：切花機械施設利用演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	切花専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
伊藤 駿河	有	株式会社タケザワ 現役社員
原 知明	有	農業大学校職員 4年経験
大橋 博子	有	農業大学校職員 1年経験

授業の目的及び内容	切花生産に必要な機械及び施設機器の操作方法や利用方法について習得する。
授業の方法	参考資料を用いて、機械・施設の仕組み、利用方法、点検、掃除の仕方などについて、演習を行う。
到達目標	機械、施設の適切な利用方法、点検、掃除方法について習得できる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料あり					
成績評価の方法・基準	理解度（演習中の行動や言動による）80%、受講態度20%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	温室の環境制御方法・各温室の環境制御装置の種類と特徴	2
2	温室管理方法 ・連休前の温室管理方法 ・異常事態の認識と対処方法	2
3	春の温室管理方法 ・各温室の換気温度、暖房温度、カーテン制御、かん水間隔とかん水時間	4
4	耕運機（歩行型） ・保管場所、構造、機能と能力、操作方法と注意点禁止行為	2
5	動力噴霧器 ・保管場所、構造、能力比較、操作方法と注意点禁止行為、農薬散布の実際（以降は適宜実施）	4
6	夏の温室管理方法 ・各温室の換気温度、遮光カーテン制御、灌水間隔と灌水時間	4
7	動力噴霧器 ・派遣実習前の復習、農薬調整法、構造、農薬散布の実際	2
8	秋の温室管理方法 ・各温室の換気温度、カーテン制御、電照設定、灌水間隔と灌水時間	4
9	冬の温室管理方法 ・各温室の換気温度、暖房温度、カーテン制御、灌水間隔と灌水時間	4
10	暖房用温湯ボイラー ・ボイラーの設置場所・構造、異常事態の認識と対処方法、温風暖房機	2
合計		30

整理番号： 68

科目名： 科目名：切花先端技術演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	切花専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
原 知明	有	農業大学校職員 4 年経験
大橋 博子	有	農業大学校職員 1 年経験

授業の目的 及び内容	切花の先端技術として実用化された技術を習得する。
授業の方法	参考資料を用いて、先端技術の知識習得と演習による技術の習得を行う。
到達目標	先端技術について、その意義が理解でき、技術が習得できる。

区 分	書 名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の 方法・基準	理解度（レポートによる）100%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内 容	時間
1	複合環境制御技術 ・ 二酸化炭素施用の方法とその効果	2
2	・ LED補光の方法とその効果	2
3	・ 高圧ミストによる夏季の昇温抑制効果	2
4	・ 変温管理における時間帯と設定温度の意義	2
5	省力化技術の利用 ・ キクの直挿し方法	4
6	・ ストックの八重鑑別方法	2
7	・ テンシオメーターを利用した灌水方法	2
8	養液栽培技術の利用 ・ バラのロックウール栽培液肥の組成、季節別施用濃度と施用量・頻度	4
9	I C T 技術の利用 ・ あぐりログ等を利用した環境データの分析、活用方法	10
合計		30

整理番号： 69

科目名： 科目名：切花植物生長調節技術

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	切花専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
原 知明	有	農業大学校職員4年経験
大橋 博子	有	農業大学校職員1年経験

授業の目的及び内容	主要切花における成長調節技術について学習する。
授業の方法	参考資料を用いて、植物成長調整剤と品目別効果について講義を行う。
到達目標	切花の品目別、目的別における植物成長調節技術を習得する。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	理解度（演習中の行動や言動による）80%、受講態度20%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画			
回数	内 容		時間
1	成長調節の意味	・栄養成長と生殖成長の概要と環境要因 ・成長を調整する意義	3
2	温度管理と成長	・栄養成長及び生殖成長と温度・施設内温度制御による成長調節事例	4
3	日長管理と成長	・栄養成長及び生殖成長と日長時間 ・日長時間及び温度による成長調節事例	4
4	化学物質と成長	・植物の成長に影響を及ぼす化学物質の特徴 ・化学物質による成長調節事例	4
合計			15

整理番号： 70

科目名： 科目名：切花病虫害対策演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	切花専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
原 知明	有	農業大学校職員 4 年経験
大橋 博子	有	農業大学校職員 1 年経験

授業の目的 及び内容	主要切花の病虫害診断と効果的な防除方法を習得する。
授業の方法	参考資料を用いて、主要切花の病虫害診断方法と効果的な防除方法について演習を行う。
到達目標	主要切花の病虫害診断と効果的な防除方法を理解できる。

区 分	書 名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の 方法・基準	理解度（演習中の行動や言動による）80%、受講態度20%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画			
回数	内 容		時間
1	病虫害対策の基本	・病虫害防除の意義 ・病虫害防除の種類と具体事例	4
2	病虫害被害の症状 ・診断方法	・病虫害発生状況の具体事例	4
3	病虫害防除の注意点	・防除暦の読み方と利用方法	2
4	化学的防除法	・農薬の種類と特徴 ・製剤の種類と特徴	4
5	農薬の利用	・農薬の調整方法と注意点 ・製剤の種類と混合の順番、注意点	4
6	農薬の使用方法	・散布と灌注 ・浸透移行性と散布方法	4
7	物理的防除法	・光の種類と昆虫の行動	2
8	生物的防除法	・天敵の種類と防除効果	2
9	耕種的防除法 病虫害の分類	・耕種的防除法の具体事例 ・病原体の種類と特徴、昆虫等の種類と特徴	4
合計			30

整理番号： 71

科目名： 科目名：農産加工演習

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	演習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	切花専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
木村 恵子 他	有	現役フラワーデザイナー

授業の目的及び内容	花きの活用を図るため、時代に沿ったフラワーデザインの感性・技術や花き素材を使用したデザート等の製作を学び習得する。 農業に対する興味を深め、花産業の発展のため、今後の花のあり方、花の方向性を見極める力を養う。
授業の方法	参考資料を用いて、様々なフラワーアレンジや花き素材を使用したデザート等を製作させる。 フラワーアレンジや調理演習を通して花に対する興味、関心をさらに向上させる。
到達目標	フラワーデザインや花き素材を使用したデザート等の製作技術を習得できる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料あり					
成績評価の方法・基準	出席率40%、理解度（作品の完成度による）30%、受講態度30%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内容	時間
1	花束及びリボンの作成	8
2	バスケットアレンジメント(360°展開)の作成	8
3	ブートニアの作成	8
4	花き素材を使用したデザート等の作成	4
5	総括(まとめ)	2
6		
7		
8		
合計		30

整理番号： 72

科目名： 科目名：切花流通論

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	1	指導形態	講義
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	切花専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
長嶋 圭	有	農業総合試験場技術推進室主任専門員
原 知明	有	農業大学校職員 4年経験
大橋 博子	有	農業大学校職員 1年経験

授業の目的及び内容	切花の流通構造について学習し、商品取引に対する見識を深める。
授業の方法	参考資料を用い、講義するほか、校外学習により市場流通の仕組み、課題について学習させる。
到達目標	切花の流通の仕組みが理解でき、市場流通に対する見識が深まる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材	講師作成資料あり					
成績評価の方法・基準	理解度（レポートによる）75%、受講態度25%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画			
回数	内 容		時間
1	切花の生産・流通	・切花の生産と流通の概要	4
2	切花市場	・市場の現状と課題	4
3	切花の生産者組織	・生産者組織の特徴と流通について	4
4	切花の消費	・生産、流通及び消費の現状と課題	3
合計			15

整理番号： 73

科目名： 科目名：専攻実習（1年）

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	10	指導形態	実習
対象学年	1年	課程名	園芸農産課程	専攻名	切花専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
原 知明	有	農業大学校職員4年経験
大橋 博子	有	農業大学校職員1年経験

授業の目的及び内容	主要切花の基本的な栽培技術を体得する。
授業の方法	切花栽培に関する様々な作業の実習を通じて、切花栽培の基本的な技術を体得させる。
到達目標	主要切花の基本的な栽培技術が体得できる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率10%、理解度（実習中の行動や言動による）30%、受講態度60%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画			
回数	内容		時間
1	基本的な栽培技術(4月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	20
2	基本的な栽培技術(5月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	50
3	基本的な栽培技術(6月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	60
4	基本的な栽培技術(7月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	30
5	基本的な栽培技術(9月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	22
6	基本的な栽培技術(10月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	16
7	基本的な栽培技術(11月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	60
8	基本的な栽培技術(12月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	52
9	基本的な栽培技術(1月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	60
10	基本的な栽培技術(2月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	50
11	基本的な栽培技術(3月)	・収穫と調整、灌水、施肥、生育状況の観察	30
合計			450

整理番号： 74

科目名： 科目名：専攻実習（2年）

科目群	専攻科目	必選区分	必須	単位	12	指導形態	実習
対象学年	2年	課程名	園芸農産課程	専攻名	切花専攻		
実務経験のある教員による授業科目又は主として実践的教育から構成される授業科目の適否							適

担当講師		
講師名	実務経験の有無	実務経験内容
原 知明	有	農業大学校職員4年経験
大橋 博子	有	農業大学校職員1年経験

授業の目的及び内容	主要切花の栽培技術と経営手法を習得するため、切花生産の実践学習及び先進農家の技術と経営を学ぶ。
授業の方法	切花栽培に関する様々な作業の実習、経営手法について実践的に学ぶとともに、切花先進農家の技術、経営を習得させる。
到達目標	主要切花の栽培技術、経営手法が習得できる。

区分	書名	著者・編集者名	出版社名			
教科書						
参考文献						
その他教材						
成績評価の方法・基準	出席率10%、理解度（実習中の行動や言動による）30%、受講態度60%で評価。					
試験の有無	定期試験	無	追試験	無	再試験	無

授業計画		
回数	内 容	時間
1	基本的な栽培技術(4月) ・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習	40
2	基本的な栽培技術(5月) ・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習	40
3	基本的な栽培技術(6月) ・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習、校外学習	40
4	基本的な栽培技術(7月) ・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習、校外学習	40
5	基本的な栽培技術(9月) ・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習、校外学習	60
6	基本的な栽培技術(10月) ・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習	60
7	基本的な栽培技術(11月) ・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習、論文作成、校外学習	60
8	基本的な栽培技術(12月) ・施設管理と栽培管理、プロジェクト学習、論文作成	70
9	卒業論文作成(1月) ・プロジェクト学習の取りまとめ、論文作成	70
10	卒業論文作成(2月) ・プロジェクト学習の取りまとめ	60
合計		540